

## 第 8 回 JAT 新人翻訳者コンテスト 英日部門

### 課題文 [Japan Earthquake: No Immediate Ratings Impact on Japanese Banks](#)

(課題文提供協力: フィッチ・レーティングス・ジャパン株式会社)

### 受賞者、最終候補者と訳文

[J26](#) (第1位 元川 華奈子) [J38](#) (第2位 土肥 英津子)

[J40](#) (荒谷 牧裕)

[J44](#) (Shoji Maruyama)

[J63](#) (Toshiko Ueda)

[J68](#) (Motoko Takesue)

[J79](#) (河村 裕紀)

### 審査員講評

[石原ゆかり審査員](#)

[千樹靖審査員](#)

[藤村聖志審査員](#)

#### J26

東日本大震災、邦銀格付けへの足元の影響は限定的

2011年3月11日、日本を襲った地震は甚大な被害をもたらしている。多くの人命が失われたことに加え、東京の北東に位置する東北地方を中心に大規模な経済損失が生じたものとみられる。フィッチ・レーティングスでは、今回の地震と直後に発生した津波による損失状況の算定を行うのは時期尚早と考えている。しかし、フィッチが格付けを付与している邦銀の東北地方におけるエクスポージャーが少ない点を勘案すれば、格付けの変更を足元ですぐに行う可能性は低い。

大手銀行から被災地への直接の融資は、2010年3月末時点における大手銀行融資残高全体の1%に満たない。直接のエクスポージャーは、大手銀行よりも地方銀行の方が大きいものの、銀行システム全体としてみれば、被災地への融資は融資残高全体の4%程度である。とはいえ、国内マクロ経済のさらなる低迷リスク、およびこうしたリスクに対する金融市場の反応は、銀行の資本基盤の悪化圧力を招くとともに、不良債権や貸倒損失額への影響をもたらすという点において、より重要になってくる可能性がある。フィッチではこれらの動向がより明確になった段階で、格付けへの影響を評価する予定である。

現在、政府支援が発行体デフォルト格付け(IDR)の下支え要因となっている銀行に関して IDR への影響は、中央政府の銀行支援能力に今回の地震がもたらす影響次第である。また現在政府支援を受けていない銀行に関しては、個別格付けに変更がない限り IDR も据え置きとなる見込みである。

現時点で具体的な数字は明らかになっていないが、被災地の復旧・復興活動に対する日本政府の支援は相当の金額になると予想される。フィッチでは、政府は日本国債を増発せざるをえないものとみており、そうなれば長期金利の上昇につながる可能性がある。しかし日本銀行(日銀)は、このように予定外に逼迫した金融情勢を緩和しようと働きかけを行っているものとみられる。事実、日銀は2011年3月14日までに計10兆円の緊急資金供給を既に実施しており、引き続き金融市場の安定および資金決済の円滑確保に努めている。

マクロ経済の先行きに対する不透明感から、国内株価は長期にわたって落ち込む可能性がある。とはいえ中期的には、東北地方でインフラや建物の再建が始まれば、需要の高まりを受けて建設会社や関連産業などが好況を呈するとみられる。フィッチでは、事態の進展と銀行に対する影響を引き続き注視していく。

## J38

日本で発生した地震について一邦銀の信用格付けへの足元の影響は限定的

2011年3月11日に日本を襲った巨大地震は、多数の犠牲者に加え東北地方に甚大な経済的損失を及ぼすと見られる。フィッチは今回の地震や津波による被害を把握するには時期尚早と見ている。しかし、フィッチが格付けを付与している邦銀の東北地方におけるエクスポージャーが小さいことを勘案すると、フィッチは信用格付けへの足元の影響は限定的と考える。

2010年3月末において、大手銀行の被災地への直接融資は対貸出残高比1%未満であった。地方銀行の直接的なエクスポージャーが大きい一方で、銀行業界全体では被災地への融資は対貸出残高比4%ほどである。しかし、日本経済が一層低迷するリスクおよび金融市場の反応一は、問題債権や貸倒額だけでなく銀行の自己資本への下押し圧力に影響するため一層注視する必要がある。フィッチは信用格付けに関するこうした傾向がより明確になるにしたがい、それらの影響を評価する予定である。

政府の銀行支援が現在の長期発行体デフォルト格付け(IDRs)にプラスに働いている銀行においては、今回の地震が中央政府の銀行業界支援能力に与える影響の度合によりIDRsへの影響も左右されることになろう。現在、IDRsが銀行支援の影響を受けていない銀行においては、個別財務格付けが据え置かれている限りIDRsは影響を受けないであろう。

日本政府の被災地復興・再建支援は莫大な額にのぼると予想されるが、算出するには時期尚早である。フィッチは政府が取るべき手段は、長期金利上昇の可能性がある日本国債(JGBs)の増発しかないと考える。しかし、日本銀行(BOJ)は、こうした計画外の金融引締めをオフセットすると見られる。日本銀行は2011年3月14日までに緊急の流動性確保のため日本円で総額10兆円を資金供給しており、金融市場の安定と円滑な資金決済の確保に努めている。

このように日本経済の見通しが不透明であることから、国内の株価下落を長引かせる可能性がある。一方で、中期的にみると、例えば建築企業や関連産業は東北地方のインフラや建築物の再建中は高需要を享受する見込みである。フィッチは今後の展開と邦銀への影響をモニターしていく予定である。

## J40

日本の地震: 金融機関の格付けには当面影響なし

2011年3月11日に日本を襲った巨大地震は、多くの人命を奪っただけでなく、東北地方を中心に莫大な経済損失をもたらすことになるだろう。フィッチ・レーティングスでは、今回の地震とその後の津波による損失の規模を試算するには時期尚早であると考えているが、当社の格付対象となっている日本の金融機関にとって、東北地方における信用リスクは限定的であることから、直ちに格付に影響を与えることはないと考えている。

大手金融機関による被災地での直接貸付は、2010年3月末の貸付残高の1%未満である。直接貸付の額は地方銀行のほうが大きいですが、それでも金融システム全体で見れば、被災地での貸付は貸付残高の約4%にすぎない。とはいえ、国内のマクロ経済が今後さらに悪化するリスクと、それに対する金融市場の反応が、不良債権や貸倒引当金に与える影響は大きく、金融機関に対する資本金の引き下げ圧力が強まる可能性がある。当社は、状況がはっきりしてきた段階で、これらの要因が格付に与える影響について評価する。

公的支援を受けているため現在の発行体デフォルト格付(IDR)が高い金融機関の場合、IDRは中央政府が金融システムを支える能力が震災でどの程度損なわれるかに影響される。IDRが公的支援の影響を受けていない金融機関の場合は、個別格付が変わらない限りIDRも変更されない。

日本政府による被災地の復興支援は、現時点では具体的な金額を算出できないが、相当な規模になるはずだ。当社の見解では、長期金利の上昇を招く可能性はあるが、日本政府は国債の増発を行わざるをえない。しかし、日本銀行は、そうした想定外の金融引き締めを相殺する動きを見せる可能性がある。日銀は、2011年3月14日までに総額10兆円の緊急流動性供給を行い、金融市場の安定確保と円滑な資金決済の維持に努めている。

マクロ経済の先行きが不透明なため、国内の株価の下落が長引く可能性もある。しかし、中期的には、例えば建設関連の企業にとっては、東北でのインフラや建物の復旧が進められるのに伴う需要の増加が好影響を与えるはずだ。当社では、今後も状況の変化と金融機関に対する影響を注視していく。

## J44

日本における地震：日本の銀行に対する格付への影響は当面のところなし

2011年3月11日に日本を襲い、壊滅的被害をもたらした地震によって数多くの人命が失われただけでなく、主として東京の北東方向に位置する東北地方では広範囲にわたる経済的損失が発生したとみられている。フィッチ・レーティングス社では、この地震と地震に続く津波を原因とする損失の金額を試算するのは時期尚早であると考えている。しかしながら、フィッチが格付を行っている日本の銀行の東北地方における信用エクスポージャーが限定的であることを考慮に入れると、格付への影響は当面のところないものとみている。

主要銀行による被災地への直接融資額は、2010年3月末時点で融資残高の1%未満であった。直接的なエクスポージャーは地方銀行の方が大きい。つまり銀行システム全体では、被災地への融資額は残高の約4%となっている。とはいえ、国内マクロ経済のさらなる減速リスクおよび金融市場の反応は、銀行資本への下押し圧力のほかに、問題債権や貸倒金額への影響面でより重大になる可能性がある。フィッチでは、これらのトレンドがより明確になるにつれて格付に与える影響について評価を行う。

現時点で発行体デフォルト格付(IDR)が政府の支援を受けている銀行に関していえば、IDRへの影響は、中央政府による銀行システムへの支援能力が今回の地震により今後受ける影響の程度によって変動するだろう。現

在 IDR が政府の支援を受けることなく運営されている銀行については、個別財務格付に変更がなされない限り IDR が影響を受けることはないだろう。

被災地における復興および再建への取り組みに対する日本政府の財政支援は相当な規模になることが予想されているが、その金額についてコメントするのは時期尚早である。フィッチでは、日本政府が国債(JGB)発行を増加させる他に選択肢はないと考えており、これにより長期利子率は上昇する可能性がある。しかしながら、日本銀行(BOJ)は金融市場環境における予見されていない引き締めを相殺しようとするだろう。つまり日本銀行は2011年3月14日までに総額10兆円の緊急流動性資金をすでに供給してきたほか、金融市場における安定性を確保し円滑な資金決済を保証し続けると表明している。

マクロ経済環境の見通しが不透明であることから、国内株価も長期にわたり低迷する可能性がある。しかしながら中期的にみれば、例えば建設会社や関連産業は、東北地方におけるインフラや建造物の再建が進捗するにつれて需要増加の恩恵を受けるだろう。フィッチでは、これらの動向の進展状況や銀行へのあらゆる影響について注視し続ける。

## J57

東日本大震災は邦銀の格付に直ちに影響せず

2011年3月11日に日本を襲った大震災により、多数の人命が失われたのみならず、東北地方を中心に大規模な経済的損失が発生した模様である。フィッチ・レーティングス(フィッチ)は、今回の地震および津波による損失の算定を試みるのは時期尚早と考えている。しかし、フィッチが格付を付与している邦銀の東北地方における債権残高は限られているため、格付に直ちに影響するとは予想していない。

大手銀行から被災地への直接融資は、2010年度末において貸付残高の1%未満であった。直接融資残高は地方銀行の方が大きい。銀行システム全体としては、被災地への融資は貸付残高の4%程度である。ただ、国内マクロ経済のさらなる低迷のリスクおよび金融市場の反応の方が、不良債権や貸倒額、ならびに銀行資本への下押し圧力に与える影響は大きいかもしれない。フィッチでは、こうした動向が格付に与える影響について、より明らかになり次第査定する予定である。

銀行の発行体デフォルト格付(IDR)が現在、政府支援の恩恵を受けている場合、IDRへの影響は、中央政府の銀行システム支援能力が震災によりどの程度影響を受けるかによって左右されよう。IDRが現在、政府支援と無関係の銀行については、個々の格付が変更されない限り、IDRは影響を受けないであろう。

日本政府の被災地における復興、再建支援の費用を算定するのは時期尚早であるものの、相当額になると見込まれる。フィッチは、日本政府は国債の増発を余儀なくされるものとみており、そうなれば、長期金利が上昇するかもしれない。しかし、日銀は、そのような意図しない金融引き締めを相殺しようとする可能性がある。日銀は、既に総額10兆円に及ぶ緊急流動資金を2011年3月14日までに注入しており、引き続き金融市場の安定の確保と円滑な資金決済の実現に尽力している。

マクロ経済の先行きが不透明であることも、国内株式価格が長期的に下落する一因となりうる。しかし中期的には、東北地方でインフラや建造物の再建が始まるため、建設業界やその関連産業などでは、需要の高まりが追

い風となるはずである。フィッチでは引き続き、事態の進展ならびに銀行に対するあらゆる影響について監視していく。

## J63

東北地方太平洋沖地震: 邦銀格付への足元の影響は限定的

2011年3月11日に日本を襲った巨大地震は、数多くの人命が失われたことに加えて、東北地方を中心に甚大な経済的損失をもたらした可能性がある。フィッチ・レーティングス(フィッチ)は地震とその後の津波に起因する損失の数値化は、時期尚早であると考えている。しかし、フィッチが格付を付与している日本の銀行の東北地方への与信額が小さい低い点を考えれば、格付への影響が足元ですぐ生じることはないものと見ている。大手銀行の被害地域への直接融資は、2010年3月末の貸出残高の1%に満たない。地方銀行の直接的なエクスポージャーは大手銀行よりも大きい。銀行業界全体としては、東北地方への融資は貸出残高の約4%である。とはいえ、国内マクロ経済のさらなる低迷リスクとそれに対する金融市場の反応は、銀行の株式資本への下方圧力とともに不良債権、貸付損失額に対して多大な影響を及ぼす可能性がある。フィッチはこうした傾向が格付へ与える影響が明らかになった時点で評価を行う予定である。発行体デフォルト格付(IDR)が政府支援の対象となっている銀行に関しては、IDRへの影響は中央政府の銀行制度を支える能力がどの程度、地震の影響を受けるかによるだろう。IDRが政府支援に基づかない銀行については、個別格付の変更がない限り、IDRには影響がないと見られる。

日本政府の被災地の復興と再建への支援について、正確な数値を出すことは時期尚早であるが、相当額になるものと思われる。フィッチは日本政府が国債(JGB)を増発せざるをえず、長期金利の上昇を招く可能性があると考えている。しかし、日本銀行(BOJ)がこうした想定外の金融情勢の逼迫の緩和に向けて努力を見せる可能性もある。BOJはすでに2011年3月14日までに総額10兆円の緊急資金供給を行っており、金融市場の安定と円滑な資金決済を確保することに注力している。

中期的には、建設会社と関連産業が東北地方でインフラや建造物の再建が進むため、需要の高まりの恩恵を受けようが、マクロ経済的に将来を見た場合の不透明感、国内株価の長期的な下落につながる可能性もある。フィッチは今後の展開と銀行への影響を注視していく。

## J68

日本の地震: 邦銀の格付への即時の影響はなし

2011年3月11日に日本を襲った壊滅的な地震により、相当数の人命が失われたのに加え、主に東北地方(東京の東北に位置する。)において莫大な経済的損失がもたらされたと思われる。当社は、かかる地震及びその後発生した津波に起因する損失の定量化を試みるのは、時期尚早であると考えている。しかし、当社は、当社が格付を付与している邦銀の東北地方に対する信用エクスポージャーが限られている点を勘案し、格付への即時の影響はないものと予想している。

大手銀行による被災地域への直接貸付は、2010年3月末時点で、その既往貸付の1%未満に過ぎなかった。より大きな直接的リスクにさらされるのは地方銀行であるが、銀行システム全体では、被災地域への貸付は既

往貸付の約4%である。とはいうものの、銀行の資本化を縮小させる圧力のみならず、不良貸付及び貸倒損失額に対する影響という観点においても、国内マクロ経済が一層低迷するリスク—そして、金融市場の反応—は、より顕著となるおそれがある。当社は、これらの動向がさらに明らかとなり次第、それが格付に及ぼす影響について評価していく。

付与されている発行体デフォルト格付(IDR)が現在政府支援からの恩恵を享受している銀行については、そのIDRに対する影響は、地震により中央政府の銀行システム支援能力が影響を被る度合いに左右されるであろう。付与されているIDRが現在政府支援に依存していない銀行については、そのIDRは、付与されている個別財務格付が変動しないままである限り、影響を被らないものと思われる。

被災地域における復興・再建努力に対する日本政府の支援は、まだその正確な数値を出す段階ではないものの、相当な金額にのぼると予想されている。当社は、日本政府が国債の発行を増加させるほかはなく、それにより長期金利の上昇がもたらされるおそれがあると考えている。しかし、日銀は、このような予定外の金融情勢の引き締めを相殺しようと努める可能性がある。日銀はすでに、2011年3月14日までに総額10兆円もの緊急流動性を供給しており、金融市場の安定及び資金決済の円滑を確保し続けるよう、全力を尽くしている。

マクロ経済の不透明な見通しによっても、国内株式価格の長期にわたる下落が引き起こされるおそれがある。しかし、中期的には、東北地方のインフラ及び建物の再建が進むにつれて、建設会社やその関連産業などは、需要の高まりから恩恵を享受するはずである。当社は、今後の展開と邦銀への影響を注視し続けていく。

## J79

地震に見舞われた日本：銀行格付けに直ちに影響せず

2011年3月11日に日本を襲った壊滅的な地震は、東北地方を中心に甚大な人的被害に加え、莫大な経済的損失をもたらしたとみられる。フィッチ・レーティングス社はこの地震とそれに伴う津波による損失額を算定するには時期尚早だと考えている。しかし、フィッチが格付けを行っている日本の銀行の東北地方での与信リスクが限定的であることから、格付けにただちに影響はないものと予想される。

大手銀行の被災地域への直接貸付は、2010年3月末時点での貸付残高全体の1%未満であった。直接のエクスポージャーは地方銀行のほうがはるかに大きい。銀行業界全体では、同地域への融資額は貸付残高の4%前後である。つまり国内マクロ経済がさらに停滞する危険性—および金融市場の反応—は、不良債権と貸倒額への影響および銀行の株式資本に対する下向きの圧力という点でより重要であるかもしれない。フィッチはこうした傾向がはっきりしてくれば格付への影響を評価していく。

発行体デフォルト格付け(IDR)が現時点で政府支援の恩恵を受けている銀行の場合、IDRへの影響は、中央政府が銀行制度を支援する能力に対するこの地震の影響によって左右される。IDRが現時点で政府支援主導ではない銀行の場合、個別の格付けに変化がない限りIDRへの影響はないだろう。

日本政府による被災地域への再生・復興支援は、その正確な額を言うにはまだ早い。せよ相当な規模になることが予想される。政府には日本国債の増発以外に選択肢はなく、これにより長期金利の上昇を招く恐れもある。しかし、日本銀行はこうした予定外の金融引き締めの埋め合わせを模索するかもしれない。日銀は既に2011年

3月14日までに計10兆円の緊急流動資金を投入しており、引き続き、金融市場の安定化および速やかな資金決済の確保に努めている。

中期的には、建設業と関連産業は東北でのインフラおよび建物の再建が始まれば需要増により利益が得られるはずだが、マクロ経済の先行きは不透明であり、国内株価の長期的な下落につながる恐れもある。フィッチは引き続き事態の進展と銀行への影響を見守っていく。

## 講評

### 石原ゆかり審査員

今年も無事、コンテストが終わりました。応募者、審査員、実行委員の皆さん、お疲れ様でした。受賞者の皆さん、おめでとうございます。

題材を選ぶにあたり、応募者の皆さんが身近に感じられ、しかもできるだけ実務に近いものを探しますが、制約もあったりするのでいつも苦労しています。今回、フィッチ・レーティングス社のご厚意により、このニーズにぴったりの題材を使うことができ、そのかいあってか多数の応募があり、少し多めの8作品が最終選考に挙がりました。経済関連は難しいのでは、というこちらの予想とは異なり、これら上位作品のレベルはかなり高く、最終審査は難航しました。その結果、今年は1位、2位が1名ずつ、入選2名と、上位4作品の選出となりました。こちらが思わずうなる表現もあり、私も勉強になりました。細かな点に注意し、さらに勉強や経験を積んで近い将来、プロとして活躍されることをお祈り申し上げます。また、今回惜しくも受賞に至らなかった方々も、受賞作品と審査員の講評を参考にして、次回のコンテストでの受賞、そしてプロデビューを目指し、一層の向上に励んでいただければ幸いです。

今回のテーマは、昨春の大震災と夏にアメリカ国債の件で話題になった「格付け」の2つを扱った、自然災害による経済への影響です。1段落目で、震災の大きさを表現するのに、significant、devastating、extensive、という形容詞が使われていて、語彙力、表現力が試されます。次に、lending、banks、loans など、経済・金融用語がいくつか出てきますが、このあたりはリサーチ力が要求されます。Issuer Default Ratings は固有名詞なので、フィッチ・レーティングス社が使用している用語を調べるというのは基本ですが、lending、bank、banking system などの一般的な用語でも、題材、文脈に合った用語選択が必要で、それには原文理解、背景知識が適切な用語選択を行う上で指針となります。2段落目以降は、震災が格付けに影響するのかわからないのか、さまざまな検討要素が順に説明されていきます。格付けとは何か、政府の復興政策、国債発行の仕組みなどを理解していれば論理が見えてきます。原文を1文ずつ丁寧に読んでいき、メモにポイントを箇条書きにしたり、図で表したりしてみると、関係がはっきりしてくることでしょう。論理を掴めれば、that said...、benefit from sovereign support、support-driven など、辞書の訳そのものではなく自分なりの表現も出てきます。

ポイントはいくつかありますが、リサーチと用語吟味の必要性の例として、banking system を挙げます。応募作品の中では銀行システム、金融システム、銀行機関、金融機関などの訳がありましたが、日本語で「銀行」と「金

融」は同義なのか、「システム」と単にカタカナ語を使用しても良いのか、注意が必要です。審査員の間でも疑問となり、私も実際にフィッチ・レーティングス社のサイトにあった実際の格付け対象一覧も開けてみたりもしました。また、英語の bank と banking system の違いの説明も調べたりもしました。ここでは system 自体に重点が置かれているわけではないので、敢えて system を訳せずに「銀行」としても良いかもしれません。いずれにせよ、正解は1つではありません。これを読んでいる皆さんにもぜひ同じように調べていただきたいので、ここでは私の結論は控えますね(イジワルですか？すみません(苦笑))。

自分で訳した言葉が定着しているか、どういった文脈で使用されているかを調べるにはグーグルなど検索エンジンを利用できます。二重引用符でその言葉を囲んで検索し、ヒットがあるかどうか、あったら文脈にあっているかどうか、使用されている文章がニュースや論文など信頼できるものか、などを確認します。複数の選択肢があれば、件数を比較してみましょう。プロは実際の仕事でも bank なんて一見簡単そうな言葉でも、いちいち調べるのか？と驚かれるかもしれませんが、プロだからこそ、自分の用語選択には責任を持たなくてはならないので、自信がなければ、どんな言葉でも時間が許す範囲で納得が行くまで調べます。英語の意味、日本語の意味、文脈、分野があっているか、用語のみでなく、用法も調べます。私がこの仕事を始めた頃に比べるとインターネットは発達し、コンテンツの量も圧倒的に多く、リサーチがとても簡単になりましたし、答えがみつかるようになりました。でも、すべてのコンテンツが正しい情報であるとは限らず、やはりそれを見極める目、それを支える基礎力が大切です。それには練習が欠かせません。

そういえば、何作品かで「足元の」という表現を見かけました。これ自体は良い訳・表現なのかもしれませんが、一般的でないせいか、どうもクセがあるなど、と思いきや、この表現はロイター社によるこの題材の一部を記事にしたもので使われていました。リサーチで見つかったので参考にした、という方もいらっしゃるかもしれませんが。一般の翻訳トライアルなどでも、その企業や分野に関係するサイトで用語やスタイルなどを確認されると思いますが、原文に忠実とは限らず、意訳・省略・追加されていたりするので、ご使用の際はくれぐれもお気をつけください。盗用などの問題もある上、特にトライアルやこのコンテストの目的は翻訳力を見るのが目的なので、実際に存在する訳と似ていたりすると、逆に悪印象を与えることもあります。題材の訳が見つかった場合は、軽く参考にする程度に留めておかれることをお勧めします。

次に入賞・入選作品についてコメントします。

## J26:

全体的にとっても良く訳されていて、表現力も高く、総合評価で1位になりました。

気になる点がいくつかあります。

最初の3行は、原文の構造とは異なって訳されていますが、特に「経済損失が生じたものと・・・」の部分で、地震が経済損失をもたらしているという点がぼけてしまっているので、逆効果のような気がします。devastating が抜けています。significant をただ「多くの」では弱いので、もう少し原文の感覚が伝わる用語が良いと思います。「東京の北東に位置する東北地方を」としていますが、この場合は読者に明白なのであっさり東北地方としても良いと思います。でも、著者が日本人でなかったりする場合などではそのまま訳す方が効果的であったりもしますし、文脈やニーズに応じて訳し分けをしてください。

have caused は「生じた」と完了的よりは、現在完了の方が良いですし、problem loans については、厳密には「不良」と「問題」とでは違うようです。「フィッチ」いきなり最初から省略しても良いでしょうか？「フィッチが...行う

可能性は低い」としていますが、自社のレポートなのに客観的過ぎる気がしました。believe が訳されています。「政府は日本国債」よりは「日本政府は国債を」か「政府は国債を」とした方が自然です。tightening 形容詞ではなくて名詞で意味が異なります。may seek 「いるものとみられる」は誤訳と判断しました。

## J57:

全体的にスムーズに訳されていて、文法もしっかりしています。ところどころ、用語選択、表現面でもう少し工夫が見られるとなお良かったです。

end-March が抜けています。「貸付残高」、「融資残高」とばらつきが見られます。英語は lend と loan ですが、ここでは同義なので敢えて変える必要はありません。英文では同じ表現の繰り返しを避けるため、違う表現を敢えて使いますが、日本語文では用語が変わると逆に読みづらい印象になります。

「発行体デフォルト格付(IDR)が現在、政府支援の恩恵を受けている」は意味が分かりづらいです。特に前半、自分の言葉できれいに訳されているので、この部分がちょっと直訳になっていて惜しいです。原文の意味をかみ砕いてみて、もう少し工夫してみると良かったです。でも、直訳でも誤訳になるよりは良い場合もあるという意見が他の審査員の方から出ましたが、私も同意見で、確かに実務では翻訳者は意味がはっきりと分からなくても(原文の誤りということもありますし)とにかく訳さなくてはいけないことが多々あります。そういうときには誤るよりは素直に訳するのが一番です。されど、特に新人の今は、その直訳から分かりやすい文に書き換える練習を続けられると良いでしょう。

support-driven を「無関係」というのは言い過ぎの気がします。「監視」は決して誤りではないのですが、個人的にはちょっと強すぎる感がありました。余談ですが、昔、医療用モニター機器関連のマニュアルの翻訳を初めて担当したときに日本支社の営業の人から「監視」の表現を患者さんに使うには適切でないので避けてください、というレビューコメントをもらいました。主観的なものもあると思いますが、対象や読者の印象を意識した用語選択を心がけましょう。

## J40:

非常にこなれた表現が多く、読みやすかったです。意味をきちんと理解した上で自分自身の表現に変えている印象を受けました。題材に詳しい、もしくはリサーチをしっかりと行われたように見受けられます。ただし、細かいところで、時制の違い、誤訳、逸脱、日本語の文法面で問題があるので、注意が必要です。

「とはいえ、国内のマクロ経済が今後さらに悪化するリスクと、それに対する金融市場の反応が、不良債権や貸倒引当金に与える影響は大きく、金融機関に対する資本金の引き下げ圧力が強まる可能性がある。」と、原文とは異なる展開になっていますが、そのために、「リスクが大きい」ことが、貸し付け額、云々よりも大きな格付けの不安材料であるという点がぼやけてしまっています。「IDR は中央政府が金融システムを支える能力が震災でどの程度損なわれるかに影響される」は、「～は～が～」と、続くところが読みづらいです。「～は」の後に読点を入れるか、表現や順序を変えると読みやすくなります。「現在の」のかかるところが違います。「はずだ。」の表現は主観的、断定的すぎて、このような報告書のような文章には馴染まない気がします。「当社の見解では、長期金利の上昇を招く可能性はあるが、日本政府は国債の増発を行わざるをえない。」は少々違和感があります。believe を見解としたのは問題ないとは思いますが、「～をえない。」で終わっているのが気になりました。「見解では、」との相性が悪いのか、それとも「～をえない」という表現が、主観的要素が強すぎる感があるためでしょう

か。In (one's) opinion を「見解では」、「意見では、」と訳すのは一般的ですが、その文の終わり方が案外難しかったです。社説などを参考に主語(部)・述語(部)の関係を研究してみてください。

J79:

素直に訳されていて将来性を感じました。ところどころ逸脱、ニュアンスの違いが気になりました。今後は、読み書き両面で量をこなして表現力を磨かれると良いでしょう。

「地震に見舞われた日本」は、Japan Earthquake 自体には「見舞われた」の意味が入っていないので、ちょっと気になりました。でも、特に題名は意識した方が効果的というか、直訳すると意味が成り立たない場合もあるので、工夫されたのは良かったです。that said は、「つまり」と順接にしまうと、その後の more の意味が出ません。このあたりは、他の審査員の方々から詳しくご説明があると思うので、そちらをお読みください。「がはっきりしてくれば」、「再建が始まれば」と、不要な仮定的表現が気になります。「原文に忠実に」を心がけてください。「格付け(IDR)が現時点で政府支援の恩恵を受けている」は、「格付けが恩恵を受ける」と読めてしまいます。「IDR が現時点で政府支援主導」は、意味が分かりにくいです。これってどういう意味？と誰かに聞かれた場合にどうやって説明するかな？と考えてみましょう。そうした言い換え作業を続けることで、より分かりやすい訳になります。「模索するかもしれない。」このような報告書ではもう少し客観的な表現の方が良い気がします。

冒頭に今回のコンテストはレベルが高かったと述べましたが、特に J26 と J40 を訳された方々は、普段、経済関連の記事などに親しまれているのでしょうか、論理もしっかり取れていて、こなれた表現も多数見られました。でも、実務翻訳では「勇み足」で原文から逸脱したり、文法的に誤っていたりすることがないように細心の注意を払ってください。特許、法律、技術文書ではもちろん、セールス関連の題材でも正確性は重要です。これに対し、J57 と J79 は原文に忠実に丁寧に訳されていて素直な良い訳だと思います。マーケティング要素の強い題材などにも対応できるように表現力を磨いてください。

実務翻訳の世界では、正確性と表現力は「同居」します。単語や熟語レベルのみで意味を考えるのではなく、文レベル->前後の文との関係->段落レベル->文章全体のように全体像を掴み、それを日本語で言い換えると正確かつ読みやすい文章になります。必ずしも1語1句日本語に置き換えるのが良いとは限りません。たいてい、皆さん1文ずつ、頭から順番に訳していくと思いますが、特に修飾語や関係代名詞、接続詞が続く長い文になると、だんだん関係が分からなくなったりしませんか？そうすると、分かっている部分をつなげて、自分の論理で文を作ったりしちゃっている例も見かけます。そこに、自分が聞いたことがある表現を足してしまったりして、原文では言っていない概念を入れてしまったりすることもあります。「長期発行体デフォルト格付け」、「個別財務格付け」、「金融情勢の逼迫の緩和に向けて努力を見せる可能性」といった表現を8作品の中で見かけましたが、「長期」は原文にはありませんし、突然「財務」が出てきてしまっているのは NG。「努力を見せる」は seek の訳としては逸脱になってしまいます。悩んだら、一息おいて、原文を「ズームアウト」して全体像を見るようにしてみましょう。逆に個々の部分に「ズームイン」して分析してみるのも1つの手です。そんな細かな「視点操作」が正確かつ読みやすい文章を生み出すコツの1つです。

来年のコンテストでもますます多くの作品、レベルの高い作品が集まることを期待しています。ぜひ皆さん、これからもがんばってください！

## 千栴靖審査員

### 第1章 なんということでしょう！

今回は、某リフォーム番組を見た後で講評を書き始めたので、こんなスタートになってしまいました。「なんということでしょう！」は、今回のコンテストの応募人数が激増したことに対してです(すごい誤訳を見つけたからではないのでご安心を)。というわけで、今回は大勢の応募者の中から最終候補に残ったこと自体が、称賛に値します。8名の皆様おめでとうございます。毎年言うようですが、他の翻訳者と翻訳を比較できるのは(しかも今年は8名も!)、長い翻訳人生でもそうそうないチャンスです。ぜひじっくり比較して自分が優れている所、劣っている所を分析してください。翻訳学校1学期分以上の収穫があると思います。そしてこれこそが、JATの翻訳コンテストが皆さんに提供できる最大の「賞品」だと思います。

また、比較する上でぜひ実感して肝に銘じて頂きたいのは、「いくら努力しても自分と同じレベルもしくは自分より優れた語学力のある翻訳者は世間にくらでもいる」という事実です。語学力向上のために常に努力することはもちろん翻訳者の大前提ですが、レベルが上がってくると語学力だけで他の翻訳者と差別化を図るのはだんだん難しくなってきます。そこで重要になってくるのが翻訳する内容の専門知識になるわけです。これについては話が長くなるのでまた別の機会にお話できればと思います。そして、その次に重要になるのがミス撲滅、和訳の場合は日本語のミスを極力減らすことです。わかりやすい例で言うと「合意/同意」、「特徴/特長」、「保証/保障/補償」は正しく使い分けできていますか?といった具合です。こうした地味なところでとりこぼしを防ぐとコンテストで入賞できる、トライアルに合格します...とは言えませんが、とりこぼしが多いとコンテストで入賞できない、トライアルに合格しないのは確実です。さらにタイポ、訳漏れ、変換ミスなどのいわゆる「チョンボ」にいたっては、何をかいわんやということになります。このあたりは以降の章で小姑の如くちくちくと指摘させていただきますので、最後まで辛抱強くお付き合い頂ければ幸いです。

### 第2章 おかんの気持ち

皆さんは、御幼少のみぎりに御母上(以下「おかん」)から夕食時に「人が何時間もかけてごはん作ってなのに、5分やそこらでかきこんで...、もっとゆっくり噛んで食べなさい。いただきますってゆうたんかいな...この子は...もう...ほんまにいい...茄子だけ除けな。ちょっと...ごはんの時ぐらいテレビけ・し・な・さ・いっ！」とか言われたことはありませんか。ある...けどそれが翻訳とどんな関係が...?と思われる皆さん、皆さんが将来プロとして翻訳するようになると、この「おかんの気持ち」が痛いほどわかるようになります。つまり...「人が何時間もかけて翻訳してるのに、5分やそこらさっと読んだだけで読みにくいか誤訳とかいちゃもんつけて...、もっとゆっくり何回か読んでもらたら、あんじょう訳してんのがわかるはずなのに...」というわけです。おかんの気持ちは、おっしゃる通り、ごもっともでございます！ですが、この翻訳者の気持ちは、残念ながら産業翻訳では通用しません。何度も読み返してもらえぬ翻訳もありますが、産業翻訳ではさっと一度読んで意味が伝わるかどうか勝負になる場合も少なくありません。今回の翻訳などは、英語の堪能な忙しい外資系ビジネスマンが出勤前にガラス張りのスタXXックスでカプチーノなんぞすすりながらタブレットPCで読んでいそうな内容です。そんな忙しい彼らは読みづらい記事を2回読むようなことはしません。「この翻訳読みにくいわ、原文で読むからもうええわ」(どうやら大

阪のビジネスマンのようです)などと言われたら、誤訳がなくとも翻訳者としては立つ瀬がありません。というわけで産業翻訳者のポイントとして第1章で挙げた語学力、専門知識、ミス撲滅に加えて、今回は読みやすい翻訳文というポイントを追加させてください。次回翻訳するときは、さらっと読んでひっかかる場所はないか、一度読んだだけで意味はすっと頭の中に入ってくるかもチェックしてみてください。毎年要求している「じっくり推敲」とは正反対の要求のようですが、皆さんは読みやすさにも気を配るレベルに達していると思います(ちなみに、さっと読んで意味がすっと入ってこない部分で、誤訳が見つかることがよくあります)。以降の章では具体例に沿ってもう少し突っ込んでみたいと思います。

### 第3章 quantify

この章からは、皆さん共通の問題点についてコメントさせていただきます。皆さん同じ所でNGを出しているの、今回は個々の翻訳のコメントよりもこちらに比重を置いてみました。

さっそく第2章の実例ができました。「quantify」を多くの方が「定量化」「数値化」と訳しています。地震の影響で銀行の格付けが変わるかという文脈で「quantify the losses」という「銭(損害額)の話をしてまんねんでえ」ということがすぐにピンとくる訳語選択をしないと、この文脈での「quantify」という言葉をプロとして翻訳サービスを提供したことにはならないと思います。「定量化」という言葉は意味が広いので、ここで「損失の定量化」と訳すとたとえ0.5秒であろうと読者に何のことだろうと考えさせる負担を負わせてしまいます。

### 第4章 ロイターも木から落ちる、「足元」にご注意

「足元ですぐ」という訳がありました。おそらくリサーチでロイターの類似記事を見つけて、ロイターの訳だから間違いないはずとそのまま使用されたのではないしょうか。残念でございました。「足元」にはいろいろな意味があり、経済や金融の分野で「足元の景気は」などと使用するときは「足元＝最近」と言う意味で使用されています。従って、「足元ですぐ」はredundantということになります。大手メディアの翻訳も常に完璧とは限らないということですね。翻訳者は、疑り深いぐらいでちょうどいいかもしれません。

### 第5章 at end-March 2010

これはおそらく皆さん意味は理解しているけれども、日本語をアウトプットした時点で意味がずれて、誤訳も正しい訳も字面は似ているのでミスに気がつかないという事例ではないかと思えます。これこそが撲滅して頂きたいミスの好例です。「at end-March 2010」はどこにかかっているのでしょうか?「2010年3月末の貸付残高」ですか?それとも「2010年3月末時点で1%未満」ですか?また、正しいかかりで確実に意味を伝えるにはどのような表現にすればいいか再考してください。

### 第6章 1%未満→greater (than 1%未満) →but 4%→That said→more significant (than X)

ここが今回のハイライトと言えるかもしれません。ポイントは2つ、隠れた「than X」と、接続語「That said」です。

前にも講評で述べましたが、「more」があると「than X」が原文になくても何と何を比較しているかを踏まえて訳す必要があります。この場合「謎の物体 X」の正体はなんでしょう？簡単に言うと「被災地への貸付残高(4%)」ですね。これが掴めていないため、煮え切らない何が言いたいかわからない訳文になっています。

接続語はそれ自身には訳すべき情報が含まれていないので、翻訳作業ではつい軽視しがちです。しかし、処理を誤ると接続語を挟む前後の文の訳は正しくても、話の方向性が見えなくなり、大きな誤訳と同じぐらい翻訳の品質にダメージを与える「げに恐ろしき」言葉です。分かりやすく言えば、「花子は太郎が好きである。しかし太郎は花子が好きである。」こういう間違いに気をつけましょうということです。

接続語の機能には、順接、逆接、並列、添加、説明、選択、転換などがありますが、「That said」は、並列や添加の機能として使われることが多いようです。ところが、皆さんは「とはいえ、しかし、とはいうものの」などの逆接の接続語を使用しています。「That said」の前後が相反する事項になっているのでしょうか？「That said」の前は、「被災地への貸付」の話(しかも4%とそんなに多くはないというニュアンス)、それに対して「That said」の後、「(貸付より)低迷リスクや市場の反応の方が significant の可能性あり」と言う内容です。この2つは相反する内容でしょうか？というわけで多くの皆さんが程度の差こそあれ、「太郎花子」的ミスを犯しているわけです。今回は影の「than 貸付残高」の認識ができておらずその部分の訳が曖昧になったため相反する事項かどうかチェックしにくくなったことも災いしたと思われます。確かに辞書に「とはいえ」と載っていますがやはり翻訳者は疑り深い方がいいようです。

1人ユニークなアプローチを試みておられる方がいました。「4%は多い」というニュアンスで訳出されているのです。これだと「貸付残高も多いけれども、リスクや反応の方が significant」という具合に「That said」前後が相反する事項になるので、逆接の接続語が一応は使用できます。「That said」前後の関係に完全でないにせよ気がついた末の奇策だと思われそうですが、そこで「That said」前の訳を無理に「こじつけずに」、英英辞書で「That said」の本来の機能を調べて完全な正解に「こぎつけて」欲しかったと思います。(駄洒落っちゃいましたね。あっ、座布団没収ですか。)

さて、文句たれはこれぐらいにして、せっかく challenging な文章に出会ったわけですから、チェッカーになったつもりで8名の翻訳を採点して順位をつけてみてください。とてもいい復習になると思います。また、ここは第2章の最後に述べた「さっと読んで意味がすっと入ってこない部分で、誤訳が見つかることがよくあります」の好例です。この文は、なにかしら皆さん問題をかかえているので、分析することで誤訳を嗅ぎつける嗅覚も養われると思います。

## 第7章 ダッシュ

「That said」で始まる文章内のダッシュですが、日本語では通常このようなダッシュの使い方はありませんし、そのまま和文にもってくると読みづらいです。

## 第 8 章 Ratings (IDRs) currently benefit

皆さん、「benefit」の訳に苦しまれたようです。「benefit」は訳しづらい時が多く、いろいろと「ネタをしこんでおく」必要がある動詞です。J26の方が上手く処理しておられます。又、IDR そのものが支援を受けているような表現は、まさに第 2 章の「おかんの気持ち」になる翻訳パターンです。「ゆっくり読んでもろたら、支援を受けているのは銀行であり IDR ではないことがわかってもらえるはずの訳文に仕上げているはずです。」という言い訳は、通用しません。

## 第 9 章 なげやり、無責任な印象を与える可能性のある語尾、読者に不安を与える可能性のある語尾

昨年も指摘しましたが、産業翻訳では、「(話し手である)私は想像する」という意味以外では「なろう」、「だろう」、「されよう」、「あろう」、「はずだ」「かもしれない」などの表現はあまり使用しないように思います。

## 第 10 章 略語の複数形

「IDRs」「JGBs」など複数の「s」は、通常日本語では表記しません。

## 第 11 章 カタカナ動詞

「オフセットする」「コメントする」がありましたが、両者とも名詞としては OK でも動詞としては、産業翻訳で市民権を得ているとは言えないでしょう。概して、名詞は OK でも動詞は NG の場合が多いと思います。ただし、「モニターする」については「監視する」よりはまだましということで使用可となる場合もあるように思います(第 13 章 J57 のコメントを参照ください)。

## 第 12 章 読者を傷つける可能性のある表現

また「benefit」ですが、「should benefit from higher demand」の訳で「好況を呈する」「高需要を享受する」「恩恵を受ける/享受する」「利益が得られる」は、震災の被災者の方への配慮に欠けた表現と受け取られる可能性があるかと感じました。これは多分に私の主観的な意見ですが、皆さんもご自身でもう一度検討してみてください。

## 第 13 章 個別コメント

ここからは個々の翻訳に対するコメントです。第 3 章から第 12 章で述べたこと以外で気が付いたところを述べていきます。

### J26

レイアウト:横方向にスクロールする必要のある読みにくいレイアウトです。私たちが目指しているのは商品としての翻訳です。中身が同じなら、きれいに陳列、包装された方の商品を買いませんか?翻訳でこの陳列や包装にあたるのが読みやすさ、後処理(校正、編集、別フォーマットへの変換など)のしやすさを考慮したレイアウトではないでしょうか。

「招くとともに、」:この訳では、ここで一旦意味が切れてしまい、「招く」ことは「可能性がある」のではなく断定しているような印象を受けます。かかりが正確にわかるような構造にする工夫が必要です。

「経済損失が生じたもの」、「働きかけを行っている」:時制表現を丁寧に。

### J38

英文解釈は間違っていなくても、日本語のアウトプットが乱暴で NG になっているケースが多いように思います。

「一方で」:この文脈で相応しいでしょうか？

「対貸出残高比」:「対 XX 比」は対になるもの=2 つの物を比較する際に使用します。ここは「貸付残高」という1 つのパイの中の割合の話ですから、「対 XX 比」は相応しくありません。

「算出するには」:この文章構造だと、何を算出するのか目的語が欲しいです。

「取るべき」:意識のつもりだと思いますが、残念ながら誤訳になっています。

「日本円で XX 円」:いつもはペセタなのに今回は日本円という文脈なら OK ですが...

「このように」:これは翻訳の問題というより、語り口の問題になりますが、直前が「日本銀行がんばってまっせ」という内容ですから、読者は「このように」がどこを指しているか迷うでしょう。

### J40

「金融機関」:「金融機関」を「銀行」とほぼ同義で使用している文章も確かに見受けられますが、「金融機関」の定義には、保険会社、リース会社、さらには質屋も含まれます。「bank」は、この文章のキーワードですので、ここでは誤解を招く可能性のある語彙選択は避けるべきかと思います。

「格付に影響を与える」:全体的に簡潔でリズムのある良い文体なのですが、ここはこの文章構造だと「格付に影響を与える」の主語が欲しいところです。

「可能性はあるが、日本政府は」:ここは which 以下を先に訳すメリットはないと思います。原文の「国債の増発」→「長期金利上昇」→「金融引き締め」の順序の方が読みやすいと思われます。

### J44

文章がやや冗長です。冗長な文章は文字数が多くなるわけですから、その分ミスが発生する可能性も高くなります。例えば、Before「日本の銀行に対する格付」→After 例「邦銀格付」などです。他の翻訳と比べて、翻訳の「軽量化」を研究してください。

「地震と地震」:極力こうした「ゴツンコ」は避けましょう。

「予見されていない/動向」:回りとそぐわない浮いた表現になっています。

### J57

「金融引き締め」:タイポでしょうか？

「monitor = 監視」:「monitor」を機械的に「監視」と訳すのは危険です(「お客様を監視して」など)、きつすぎる場合がよくあります。この場合もそのように感じます。

### J63

レイアウト: 原文の段落と訳文の段落が呼応しておらず、読みにくいレイアウトです。J26 のコメントを参照してください。

「巨大地震は、...人命が失われた」: ここは挿入句内も主語述語を呼応させる必要があります。これが第 1 章でいう「とりこぼし」です。

「小さい低い」: 第 1 章でいう「何をかいわんや」です。

「明らかになった時点で」: OK にする人もいますが、微妙に誤訳です(これだと現在は全く明らかでないことが imply されます。原文はどうですか?)。こう言う訳が重なると、丁寧に訳してくれないという印象を持たれてしまいます。

「figure on the amount à 正確な数値」: 第 3 章と同じパターンです。

## J68

「かかる」: この文脈では堅すぎる印象を覚えます。

「銀行の資本化を収縮」: 誤訳というか、何を意味しようとしているのかが掴めない表現です。

「依存していない」: 違和感を覚えます。他の方の訳を研究してください。

## J79

読点: 基本的に読みやすさを損なわない限りは読点が少ない方が良いですが、必要な場所に読点がありません。

「フィッチ・レーティングス社は」: 「フィッチは」この 2 文は読点がありません。基本的には主文の主部が終了したところで、読点を打つべきか常に考えてください。

「日本の銀行の東北地方での」: たとえば「邦銀の東北地方における」とすれば「の」の連続を避けることができます。「の」の連続を回避できるよう、普段から語彙や言い回しの引き出しを増やしていく努力をしてください。

「つまり」: 「That' said」の訳ですが、第 6 章で触れなかったのでここで触れておきます。おそらく、逆接の接続語ではおかしいということに気づいての苦肉の策だとお見受けしました。しかし、「つまり」という接続語の機能は「説明」です。「つまり」、言い換えたり、例示する文を導きます。「That' said」の文は前文の説明ではありませんので、残念ながらこれも NG です。

「政府支援主導」: 意味不明になっています。

「額を言う」: 急にここだけレジスターが下がっています。翻訳対象全文でレジスターを揃えるためには、やはり語彙を豊富にしておく必要があります。

## 第 14 章 終わりに

翻訳コンテストですので、翻訳の質についてあれこれと述べさせていただきましたが、最後に翻訳の量について少し述べさせていただきます。今回皆様に訳して頂いたのは仕上がりの日本語で 1000 文字弱です。皆さんがめでたくトライアルに合格してプロになられた場合、1 日あたりその 3 倍から 4 倍、すなわち 3000 文字から 4000 文字の量の翻訳を要求される状況もできます。しかもそれが、数日、数週間続く場合もあります。というわけで、プロ = 質 + 量なので、今後は量もこなせる実力を磨いて頂きたいと思います。皆様がんばってください。

## 藤村聖志審査員

新人翻訳者の皆様、お疲れさまでした。今回は、前回に比べて全体的に水準が高く、入賞・入選作品の選考に当たっては相当迷いました。最終的には、商品性・完成度と正確性のバランスが取れている作品を優先しました。それでは、各作品について簡単にコメントいたします。

### J26

J26さんは、今回の題材を良く吟味されてそれにふさわしい用語を選択されていますし、経済系の背景知識をきちっと備えていらっしゃるようです。これといった誤訳もなく、完成度が高い印象を受けました。私が本作品を1位に推薦した一番大きな理由は、第2パラグラフの「That said, the risk of...on the bank's capitalization.」の部分で、変に丸め込まずに、もれなく訳していらっしゃるからです。ここは、この題材の論理の流れが変わる大事な部分で、「may be more significant in terms of its impact on...」のくだりを皆さんどう訳すか注目していたのですが、J26さんは成功例といえるでしょう。実は、J40、J57、J26が最後までデッドヒートを繰り広げたのですが、私は、総合的な完成度とこの部分の訳を含む忠実な翻訳態度を考慮して、J26を1位にしました。

ただ、どういうわけか、冒頭の2行は変に水膨れ訳になっています。「2011年...被害をもたらしている。多くの...生じたものとみられる。」は、J26さんの実力から見ると、一文にまとめ上げることができたはずだと思います。「東京の北東に位置する東北地方」も、「東京北東の」くらいに縮めることができたのでは？日本人なら誰でも知っていることだから、「東北地方」だけでもよかったですね。少し言葉を詰め込みすぎる傾向があるようです。第4パラグラフの「may seek to offset...」のくだりでも、「働きかけを行っているものとみられる」と訳されていますが、「働きかけを行うとみられる」で充分でしょう。「seek」を現在進行的な動きに解釈されたようですが、「働きかけ」で充分表現されています。訳文が出来上がったなら、安心せずに、削れるところはぎりぎりまで削る努力をしてください。

### J57

全体に素直な訳で、大きなミスが見当たりません。簡潔で読みやすく、かなり文章を書きなれている方ではないかと想像しています。ただ、「That said, the risk of...on the bank's capitalization.」の部分では、誤訳ではないにせよ、J26のほうが正確ですね。「下押し圧力に与える影響」は何か変だとは思いませんか？「下押し圧力」というネガティブな現象がすでに何かの影響の結果なのです。原文を良く見ると、as well asの前にカンマがありますね。つまり、impact onがかかるのはここまでで、as well as以下にはin terms ofがかかっていると見るべきでしょう。

J57さんの訳文で「あれ？」と思ったのは、「査定」とか「金融引き締め」という言いかたです。「査定」というのは、成績や財産といった、肯定的な要素を評価・見積もりする用語で、原文のような格付けに及ぼす悪影響を「査定」とは言わないでしょう。また、「金融引き締め」は「金融引き締め」ですね。政府の国債増発で長期金利が上昇云々を前文で説明しているわけですから、(余儀なく実施するにせよ)政府による「金融引き締め」ですよ。「金融引き締め」と言ってしまうえば自然発生的な現象になります。「意図しない(自然発生的な)金融引き締め」という表現自体が不自然ですね。翻訳者にとっては英語と同じくらい日本語も大事だと思ってください。

## J40

はっきりいって、上手な訳だと思います。J26 もそうなのですが、金融レポート文としては、訳語、文体ともに完成された域に近いと思います。読みやすくりズムも良い。事実、最初は、J40 さんを1位にしていました。最終的に上位 2 作品と差がついたのは、やはり、「That said, the risk of...on the bank's capitalization.」の部分の訳です。

J40 の訳では、「may be more significant in term of its impact on...」のくだりがはっきり反映されていません。原文筆者は、「国内マクロ経済悪化と金融市場の反応」が「被災地でのローカルな信用リスク」と比べて「may be more significant」(もっと重大事であろう)と言っているのであって、何に関して「significant」なのかというと、「impact on problem loans and loan-loss charges, as well as downward pressure on the bank's capitalization」なのですね。つまり、(地震の結果である)「不良債権、貸倒引当金への影響、資本金の引き下げ圧力」に目を向けると、被災地での金融エクスポージャーよりも「国内マクロ経済悪化と金融市場の反応」がもっと心配だと、言いたいのではないのでしょうか。its impact on..の its は、「国内マクロ経済悪化と金融市場の反応」でいいのですが、この不良債権、貸倒引当金への影響も、「資本金の引き下げ圧力」と同じく、地震の結果です。「...金融機関に対する資本金の引き下げ圧力が強まる可能性がある」という訳は、in term of を無視した結果だと思います。非常にスマートな訳ですが、少し強引にまとめすぎた感があります。「That said」とう微妙なつながり言葉も、それまでの被災地での金融リスクへの言及を一旦保留して、「こうは言ったものの、本当のリスクはこれからお話することですよ」という気持ちを表しているから、however ではないのですよね。

わかりやすく綺麗に仕上げるのは大事なのですが、やりすぎには注意してください。特に、原文の構文に逆らって訳す時は、最大の注意が必要です。

## J79

J79 さんの一番良いところは、なるべく構文に逆らわずに、もれなく正確に訳そうという姿勢が見られることです。原文の流れ通りに訳そうとしたら、往々にして英文解釈テストの解答みたいになるものですが、そういうぎこちなさもあまり見受けられません。

上位3作品にくらべて劣るのは、表現力の不足です。ところどころに、アマチュアを感じさせる表現があります。第一パラグラフでは、「...もたらしたとみられる」は、「..is likely to have caused..」の訳を辞書からそのまま借りてきたような感じです。せめて「...もたらしたようだ」くらいにして、受け身言葉が連続するのを避けてください。受身表現は客観性を強調する一方、必要以上に消極的な印象を与えます。さらに、「..is likely to..」はこれから起こる事に対して使うことが多い表現なので、J40 のように、「...もたらすことになるだろう」とすれば、もっと良いと思います。つまり、「最終的には大きな経済損失を被るのではないか」と言っているのであって、それが「...損失額を算定するには時期尚早」という言葉につながるのですね。第二パラグラフの that said に対する「つまり」は、少し無理があります。That said が完全な逆説ではなく「とはいえ」等の表現を避けたのでしょうか、前文との脈絡が弱く、結びの「...かもしれない。」とも呼応しません。「...かもしれない。」に呼応させようとするれば、「それよりも」「それはそれとして」等とするべきでしょう。第三パラグラフの「IDRが現時点では政府支援主導ではない」はまずかったですね。「support-driven」は、「政府が主導」するのではなく「政府支援を受けている」状態ですから、「政府支援を受けていない」とするべきでした。第 4 パラグラフの「埋め合わせを模索する」は、あまりに素朴すぎま

すね。J40の「金融引き締めを相殺する動きを見せる」とかJ26の「逼迫した金融情勢を緩和しようと働きかけ」を参考にしてください。原文は経済・金融レポートですから、それなりの表現が必要です。いろいろな本を読んで、言葉の引き出しを増やしてください。

## J68

大意はとれています。第二パラグラフの That said 以下を除いては、大過なく訳されていますが、漢語の使い方が悪いですね。「損失の定量化」は「損失の試算」「損失の算定」くらいにしてください。「定量化」というのは工業系文書で頻出する用語で、ここでは少し大げさです。「恩恵を享受」も間違いではないのですが、「恩恵を受けている」でいいのではないですか。「付与されているIDR」「付与されている個別財務格付」の「付与」は必要ないですね。「付与」というようないかめしい漢語は、なるべく少なめにしてください。最後に「緊急流動性を供給する」ですが、「緊急流動性資金を供給する」ならわかります。「liquidity」というのは、有価証券の流通性や資産の市場性・換金性等を指しますが、要するに市場に金を供給して「liquidity」を確保する政策ですから、「緊急資金供給」でもいいくらいです。

## J44

J44さんも、原文はちゃんと解釈されているのですが、もっと訳文を磨きあげる努力が必要ですね。しっかり推敲すれば、もっとコンパクトになると思います。「東京の北東方向に位置する東北地方」は、読みにくありませんか。ネイティブにとっては東北地方がわかり辛いので「東京の北東」とか説明していますが、日本人にとっては自明の事実で「東京の北東」自体が不要な情報です。どうしても原文通りに訳出しておきたいというなら、「...方向に位置する」を削って「東京の北東にある」くらいまで縮めてください。「trends」を「トレンド」としたのはいただけません。「動向」あるいは「状況」がふさわしいですね。「トレンド」はカタカナ言葉で、「流行」「はやり」の意味以外には使わないほうが無難です。最近は何事あるごとに和製英語を使う傾向があるみたいですが、そういったカタカナ言葉を安易に使うたびに国語が貧困になっていくことを自覚してください。「IDRが政府の支援を受けることなく運営されている」「運営されている」は不要です。簡単に「政府の支援を受けていない」でいいのではないですか。「IDRを運営する」というのもおかしいですね。「金融市場環境における予見されていない引き締め」は「monetary conditions」を「金融市場環境」と訳したものだと思われませんが、これは日銀国債増発の結果としての緊縮した金融状況をいうのであって、「想定外の金融引き締め」(J40)「予想外に逼迫した金融情勢」(J26)等として、原文に引きずられずに、何が引き締まるのか明示してください。「committed to continue」を「保証し続けると表明している」としたのも、原文に引きずられたままで工夫が足りません。J26では「引き続き...に努めている」と副詞的に訳し、J40では「...維持に努めている」と名詞的に訳して、すっきりした形になっています。また、「commit to」は、何かの行動に対して自分が専心する姿勢を示しているものであって、あえて「表明(express)」しているとは言いえないでしょう。

## J63

J63さんは、That said に続く文をきっちり訳せていません。大意はとれていますが、in terms of を無視した形になっています。「損失の数値化」は、quantify の辞書訳の受け売りですね。辞書の訳を参考にするのはいいのですが、しっかり文例を読んで、中心になる語義を捉えるようにしてください。英英辞典を利用するのも一つの

方法ですが、定義自体がピンとこない場合も多いので、例文の中で使い方を見極めるのがいいと思います。そうすれば、「算定」「算出」という訳もできるようになるでしょう。ここが estimate ならそういう訳をされたと思いますが、quantify は estimate を含む広い概念とってください。「影響が足元ですぐに生じる」は、「足元」という言葉を使いたければ「すぐに」は削ってください。あまり「足元」という表現はお勧めできませんが、「すぐに」の意味を包含した言い方だということを知っているのなら問題ないです。「東北地方への与信額が小さい」は、「...与信リスクが小さい」か「...貸付額が小さい」とすべきでしょう。exposure は回収不能となるリスクに曝されることを意味するので、「...与信リスクが小さい」のほうがいいですね。言い忘れましたが、タイトルの「東北地方太平洋沖地震」は、原文が Japan Earthquake とさらっと言っているのだから、「日本で地震」くらいにしておいてください。あまりこれと言った悪い癖がないので、多くの英文や和文を読んで、辞書だけに頼らずに柔らかく表現できるように努めてください。

### J38

J38 さんも、原文は解釈できています。目立った欠点としては、余計な付け足しが多く、訳文の仕上げが甘いということです。削りすぎても駄目ですが、適当な表現が見つからないからといって原文にない言葉を補ってはいけません。これは癖になりますから注意してください。例えば「日本で発生した地震について」は、地震解説記事のタイトルみたいですね。一つの書き過ぎが後に続く文章全体のイメージを左右することもあるので、タイトルは特に注意してください。「...影響するため一層注視する必要がある。」は、「may be more significant..」に対応するのでしょうか。構文全体がしっかり把握できてなかったみたいですね。「金融引き締めをオフセット」は、せめて「金融引き締めを相殺」としてください。思い切って「金融引き締めを緩和」としても、原文内容を考慮すると、むしろ秀逸といえます。適当な日本語がある場合はそっちを優先したほうが無難であり、カタカナ語は本当に必要な時以外使わないことをお勧めします。「モニターしていく」なんかも考え直してくださいね。「日本円で総額 10 兆円」はおかしいですね。「10 兆円」と言っているのだから、「日本円」は要りません。JPY は、「円」で表現できています。「高需要を享受する」は、「高需要による好影響を受ける」くらいに噛み砕いて表現するようにしてください。enjoy higher demand（「高需要を享受する」）と benefit from higher demand とは、微妙に違います。あるいは原文の字面から離れて J26 のように「需要の高まりを受けて...好況を呈する...」とすれば、もっと良いと思います。付け足しや不自然な訳は、英文や英単語がなんとなくしかわかっていない場合に苦し紛れにやってしまうことが多いものです。英文、日本文ともにいろんな文章を読んで、経験を積んでくださいね。

最後に新人の皆さまに一つだけアドバイスします。辞書に載っている訳ですべてかたがつくと思わないでください。辞書はあくまで参考資料であって、個々の単語は文脈のなかで生きています。翻訳は、原文の題材を見極めてそれに合った訳文を作る総合作業ですから、インターネットや参考書等、いろんな手段を動員して少しでも自然な表現を探し出すようにしてください。今少し遠回りをしてやっていることが将来必ず役に立ちますので。